

# 金田一春彦博士年譜ならびに主要著作目録

上野和昭編

本稿は、『金田一春彦博士古稀記念論文集』第三巻（三省堂，昭和59年7月）に掲載された博士自筆の年譜と著作目録をもとに，その後の業績を『国語年鑑』や『国語学研究文献索引』などから補ったものである。作成にあたっては，ご次男金田一秀穂氏と元秘書の井上明美氏にご協力いただいた。博士のお仕事は，周知のように日本語学・言語学だけにかぎるものではなく，その数も頗る多い。ここでは紙幅の都合から日本語学関係のものを中心に上げ，書評・展望・解説・随筆の類，また教科書・創作曲集・レコード・テープ・CDなどについては多く割愛せざるをえなかったことを申し添える。

## 年 譜

- 大正2年4月3日 東京市本郷区森川町（現東京都文京区本郷六丁目）に生まれる
- 大正9年4月 本郷区立真砂小学校入学，のち杉並第二小学校に転校
- 大正15年4月 東京府立第六中学校（現新宿高等学校）入学
- 昭和5年4月 旧制浦和高等学校文科甲類入学
- 昭和9年4月 東京帝国大学文学部国文学科入学（～昭和12年3月卒業）
- 昭和12年4月 東京帝国大学大学院入学（～昭和15年3月，この間兵役半年）
- 昭和15年4月 東京府立第十中学校（現西高等学校）教諭（～昭和17年3月）
- 昭和17年4月 日華学院教授（～昭和21年3月）
- 昭和21年4月 文部省国語科嘱託（～昭和24年3月）
- 昭和24年4月 国立国語研究所研究員（～昭和28年3月）
- 昭和28年4月 名古屋大学助教授（教育学部・文学部～昭和36年3月）
- 昭和36年4月 東京外国語大学教授（～昭和45年3月）
- 昭和37年2月 文学博士の学位取得
- 昭和46年4月 京都産業大学教授（外国語学部～昭和49年3月）
- 昭和49年4月 上智大学教授（外国語学部～昭和59年3月）
- 昭和52年3月 NHK 放送文化賞受賞，同11月 紫綬褒章受賞
- 昭和57年5月 国語学会代表理事（～昭和60年）
- 昭和58年3月 『十五夜お月さん 本居長世 人と作品』により芸術選奨文部大臣賞受賞，  
同11月 同じく毎日出版文化賞受賞

- 昭和59年4月 武蔵野女子大学客員教授（～平成元年3月）  
 昭和61年11月 叙勲（勲三等旭日中綬章）  
 平成元年4月 玉川大学客員教授（～平成14年3月）、津田塾日本語教育センター首席講師（のち顧問）  
 平成9年11月 文化功労者  
 平成10年7月 「金田一春彦ことばの資料館」開館（ハヶ岳大泉図書館内）  
 平成12年10月 「四座講式」の研究に対して密教学芸賞受賞、同12月 山梨県大泉村名誉村民  
 平成13年10月 東京都名誉都民  
 平成16年5月19日 くも膜下出血により死去、満91歳

この間、国語審議会委員、NHK用語委員、NHK放送研修センター評議委員、東洋音楽学会副会長、全国学校図書館協議会会長、日本琵琶楽協会会長、日本ペンクラブ理事などを歴任。また、東京大学をはじめ京都大学、東京芸術大学、早稲田大学、慶應義塾大学、ハワイ大学、北京日本語センターなどで講師を務め、いくつかの放送局のアンウンサー養成所にも出講。さらにNHK大学講座など多くの番組に出演。

## 主要著作目録

### 著書（共著も含む）

- 『埼玉県下に分布する特殊アクセントの研究』（私家版、昭和23年11月）  
 『話しコトバの技術』（光風出版、昭和31年1月/復刊『話し言葉の技術』講談社、昭和52年3月）  
 『日本語』（岩波書店、昭和32年1月）  
 『日本古典語典』（東峰書院、昭和34年12月/続編 昭和36年1月）  
 『四座講式の研究——邦楽古典の旋律による国語アクセント史の研究各論（一）——』（私家版、昭和36年3月/補訂して三省堂、昭和39年3月）  
 『日本語の生理と心理』（至文堂、昭和37年5月/改訂して『日本人の言語表現』講談社、昭和50年10月）  
 『新日本語論——私の現代語教室——』（筑摩書房、昭和41年2月/再刊 同、昭和46年4月）  
 『ことばの博物誌』（文芸春秋、昭和41年11月/再刊『ことばの歳時記』新潮社、昭和48年8月/改版 平成4年12月）  
 『日本語音韻の研究』（東京堂出版、昭和42年3月）  
 『国語アクセントの史的研究——原理と方法——』（塙書房、昭和49年3月）  
 『日本の方言——アクセントの変遷とその実相——』（教育出版、昭和50年9月/増補版 平成7年4月）  
 『日本語への希望』（大修館書店、昭和51年1月/新装版 平成2年4月）

- 『日本語方言の研究』（東京堂出版，昭和52年8月）
- 『父京助を語る』（教育出版，昭和52年11月）
- 『ことばの昭和史』（大石初太郎ほかと共著，朝日新聞社，昭和53年1月）
- 『日本語と日本文化』（多田道太郎ほかと共著，朝日新聞社，昭和53年8月）
- 『童謡・唱歌の世界』（主婦の友社，昭和53年11月/増補版 教育出版，平成7年9月）
- 『垣通しの花』（音楽鑑賞教育振興会，昭和55年10月）
- 『日本語の特質』（日本放送出版協会，昭和56年6月/再刊 平成3年2月）
- 『変わる日本語：現代語は乱れてきたか』（外山滋比古ほかと共著，講談社，昭和56年11月）
- 『日本語セミナー』一～六（筑摩書房，昭和57年11月～昭和58年12月）
- 『十五夜お月さん 本居長世 人と作品』（三省堂，昭和57年12月）
- 『ケヤキ横丁の住人』（東京書籍，昭和58年11月）
- 『新版 日本語』上・下（岩波書店，昭和63年1月・3月）
- 『日本語は京の秋空』（スタジオ・シップ，平成5年12月）
- 『わが青春の記』（東京新聞出版局，平成6年12月）
- 『平曲考』（三省堂，平成9年5月）
- 『日本語教室』（筑摩書房，平成10年6月）
- 『日本語音韻音調史の研究』（吉川弘文館，平成13年1月）
- 『ホンモノの日本語を話していますか？』（角川書店，平成13年4月）
- 『日本語を反省してみませんか』（角川書店，平成14年1月）
- 『いい日本語を忘れていませんか 使い方と、その語源』（講談社，平成14年10月）
- 『心にしまっておきたい日本語 忘れられない名文・秀句・子どもの歌』（ベストセラーズ，平成15年2月）
- 『金田一先生が語る日本語のこころ』（学習研究社，平成15年4月）

**監修・編書（共編・校注書を含む）**

- 『国語アクセント論叢』（寺川喜四男・稲垣正幸と共編，法政大学出版局，昭和26年12月）
- 『日本語の種々相』講座日本語 第三卷（編著，大月書店，昭和30年11月）
- 『ことば・話・文章』ことばの講座 第三卷（著者代表，東京創元社，昭和31年1月）
- 『ことばの生活技術』ことばの講座 第四卷（著者代表，東京創元社，昭和31年4月）
- 『明解日本語アクセント辞典』（監修，秋永一枝編，三省堂，昭和33年6月/第二版 昭和56年4月/『新明解日本語アクセント辞典』平成13年3月）
- 『平家物語』上・下 日本古典文学大系 32・33（高木市之助ほかと校注，岩波書店，昭和34年2月・昭和35年11月）
- 『三省堂国語辞典』（見坊豪紀ほかと共編，三省堂，初版 昭和35年12月～第五版 平成13年

3月)

- 『明解古語辞典』新版（金田一京助と監修，三省堂編修所編，三省堂，昭和37年10月/修訂新版 昭和42年11月/『新明解古語辞典』三省堂編修所と共編，三省堂，初版 昭和47年12月～第三版 平成7年1月）
- 『新明解国語辞典』（山田忠雄ほかと共編，三省堂，初版 昭和47年1月～第三版 昭和56年2月）
- 『平家物語総索引』（清水功・近藤政美と共編，学習研究社，昭和48年4月）
- 『新明解古語辞典 補注版』（三省堂編修所と共編，三省堂，昭和48年7月/第二版 昭和49年6月/大型机上版 名著普及会，昭和54年7月）
- 『日本語動詞のアスペクト』（編，麦書房，昭和51年5月）
- 『日本語の姿』日本語講座 第一巻（編，大修館書店，昭和51年10月/新装版 平成2年4月）
- 『日本語の特色』ことばの研究室（編，講談社，昭和52年11月）
- 『日本人の言語生活』ことばの研究室（編，講談社，昭和52年11月）
- 『ことばの由来』ことばの研究室（編，講談社，昭和53年2月）
- 『ことばの生い立ち』ことばの研究室（編，講談社，昭和53年2月）
- 『ことばの魔術』ことばの研究室（編，講談社，昭和53年2月）
- 『学研国語大辞典』（池田弥三郎と共編，学習研究社，昭和53年4月/第二版 昭和63年2月/机上版 昭和63年4月）
- 『日本の言語学2 音韻』（柴田武・北村甫と共編，大修館書店，昭和55年2月）
- 『日本語百科大事典』（林大・柴田武と編集責任，大修館書店，昭和63年5月）
- 『平安朝日本語復元による朗読 紫式部源氏物語』（池田弥三郎と監修，日本コロムビア，昭和46年12月）
- 『日本の唱歌』上 明治篇，中 大正・昭和篇，下 学生歌・軍歌・宗教歌（安西愛子と共編，講談社，昭和52年10月・昭和54年7月・昭和57年5月）
- 『朗読源氏物語 平安朝日本語復元による試み』（言語監修，大修館書店，昭和61年6月）
- 『日本語大辞典』（梅棹忠夫ほかと監修，講談社，平成元年11月/第二版 平成7年7月）
- 『学研現代新国語辞典』（編，学習研究社，平成6年4月/改訂新版 平成9年11月～改訂第三版 平成14年4月）
- 『名前』日本の名随筆 別巻26（編，作品社，平成5年4月）
- 『全訳用例古語辞典』コンパクト版（監修，学研辞典編集部編，学習研究社，平成8年4月/ビジュアル版 平成14年12月）
- 『青洲文庫本 平家正節』（編，三省堂，平成10年7月）
- 『完訳用例古語辞典』（監修，小久保崇明編者代表，学習研究社，平成11年4月/増補改訂して『学研全訳古語辞典』平成15年12月）

『金田一先生の日本語教室』全七巻（監修，学習研究社，近刊）

論文（一部共著のものを含む）

- 「諸方言の比較から観た平安朝のアクセント——特に二音節名詞に就て——」（『方言』第7巻第6号，昭和12年7月）
- 「国語アクセントの地方的分布」（国語教育学会編『標準語と国語教育』，岩波書店，昭和15年9月）
- 「東京語アクセントの再検討（一）（二）——諸方言の比較から観た東京語アクセント——」（『国語教育誌』第1巻第1号・第2号，昭和16年8・9月）
- 「補忘記の研究 続貂」（日本方言学会編『日本語のアクセント』，中央公論社，昭和17年3月）
- 「関東地方に於けるアクセントの分布」（同上）
- 「ガ行鼻音論」（国語学振興会編『現代日本語の研究』，白水社，昭和17年6月）
- 「移りゆく東京アクセント（一）～（四）」（『国語文化』第2巻第13号・第3巻第3・4・6号，昭和17年12月・昭和18年3・4・6月）
- 「国語アクセント断想」（『ローマ字世界』第33巻第1号，昭和18年1月）
- 「国語アクセントの史的研究」（日本方言学会編『国語アクセントの話』，春陽堂書店，昭和18年3月）
- 「契沖の仮名遣書所載の国語アクセント」（『国語と国文学』第20巻第4号，昭和18年4月）
- 「静岡・山梨・長野県下のアクセント（1）（2）」（『音声学協会会報』第72・73合併号・第74・75合併号，昭和18年5・12月）
- 「邦楽の旋律と歌詞のアクセント」（『田辺先生還暦記念 東亜音楽論叢』，山一書房，昭和18年8月）
- 「中国人に日本語を教へて」（『コトバ』第5巻第11号，昭和18年11月）
- 「関東平野地方の音韻分布」（『方言研究』第8輯，昭和18年11月）
- 「伊豆諸島の音韻とアクセントところどころ」（同上）
- 「類聚名義抄和訓に施されたる声符について」（橋本博士還暦記念会編『国語学論集』，岩波書店，昭和19年10月）
- 「東京語における「花」と「鼻」の区別」（『季刊国語』昭和22年夏季号，昭和22年6月）
- 「語調変化の法則の探求」（『東洋語研究』3，昭和22年8月）
- 「金光明最勝王経音義に見える一種の万葉仮名遣に就いて」（『国語と国文学』第24巻第11号，昭和22年11月）
- 「一型アクセントの考察——水戸方言のアクセント型について——」（『コトバ』復刊第7号，昭和23年9月）

- 「[五億]と「業苦」——引き音節の提唱——」(『国語と国文学』第27巻 第1号, 昭和25年1月)
- 「国語動詞の一分類」(『言語研究』第15号, 昭和25年4月)
- 「京阪アクセントの新しい見方」(『近畿方言』第3号, 昭和25年8月)
- 「コトバの旋律」(『国語学』第5輯, 昭和26年2月)
- 「日本四声古義」(寺川喜四男ほか編『国語アクセント論叢』, 法政大学出版局, 昭和26年12月)
- 「前田流平曲のメロディーについて」(『日本文学研究』第31号, 昭和27年3・4月)
- 「潜在アクセントの提唱」(『日本文学研究』第34号, 昭和27年10月)
- 「辺境地方の言葉は果して古いか」(『言語生活』第17号, 昭和28年2月)
- 「不変化助動詞の本質(上)(下)」(『国語国文』第22巻 第2・3号, 昭和28年2・3月)
- 「国語アクセント史の研究が何に役立つか」(『金田一博士古稀記念言語民俗論叢』, 三省堂, 昭和28年5月)
- 「不変化助動詞の本質・再論——時枝博士・水谷氏, 両家に答えて——」(『国語国文』第22巻 第9号, 昭和28年9月)
- 「音韻」(東條操編『日本方言学』, 吉川弘文館, 昭和28年12月)
- 「言語としての日本語の特色」(川端康成ほか編『文章講座』第二 文章構成, 河出書房, 昭和29年8月)
- 「東西両アクセントのちがいが出来るまで」(『文学』第22巻 第8号, 昭和29年8月)
- 「対馬 附・壱岐 のアクセントの地位」(九学会連合対馬共同調査委員会編『対馬の自然と文化』, 古今書院, 昭和29年9月)
- 「日本語動詞のテンスとアスペクト」(『名古屋大学文学部研究論集』X(文学4), 昭和30年3月)
- 「近畿中央部のアクセント覚え書き」(『東條操先生古稀祝賀論文集』, 近畿方言学会, 昭和30年4月)
- 「日本語 I 分布 III 文法 V 方言」(分担執筆, 市川三喜・服部四郎編『世界言語概説』下巻, 研究社出版, 昭和30年5月/新装版 平成12年3月)
- 「古代アクセントから近代アクセントへ」(『国語学』第22輯, 昭和30年9月)
- 「日本文化と日本語」(西尾実編『言葉と生活』, 毎日新聞社, 昭和30年11月)
- 「日本人の言語行動——言語版『菊と刀』——」(上甲幹一編『講座日本語』第四巻 日本人の言語生活, 大月書店, 昭和30年11月)
- 「方言の諸相」(岩井隆盛ほかと共著, 九学会連合能登調査委員会編『能登——自然・文化・社会——』, 平凡社, 昭和30年12月)
- 「柴田君の「日本語のアクセント体系」を読んで」(『国語学』第26輯, 昭和31年10月)
- 「奈良田郷のことば」(稲垣正幸ほか編『奈良田の方言』, 山梨民俗の会, 昭和32年8月)
- 「平曲の曲調(一)——仙台のものを中心として——」(高木市之助ほか監修『平家物語講座』第二巻

- 伝承と研究, 東京創元社, 昭和 32 年 10 月)
- 「日本語のアクセント」(林大ほか編『講座 現代国語学』II ことばの体系, 筑摩書房, 昭和 32 年 12 月)
- 「日本語アクセント卑見」(『国語研究』第 7 号, 昭和 32 年 12 月)
- 「日本語の特色」(西尾実ほか監修『国語教育のための国語講座』第一巻 言語の本質と国語教育, 朝倉書店, 昭和 33 年 6 月)
- 「撥ねる音・つめる音」(『国語と国文学』第 35 巻 第 6 号, 昭和 33 年 6 月)
- 「東京アクセントの特徴は何か」(『言語生活』第 83 号, 昭和 33 年 8 月)
- 「日本語の特異性」(中村元ほか編『東洋思想講座』第五巻 東洋の美と芸術, 至文堂, 昭和 33 年 10 月)
- 「東京語の特色」(『国文学 言語と文芸』創刊号, 昭和 33 年 11 月)
- 「熊野灘沿岸諸方言のアクセント」(『名古屋大学文学部十周年記念論集』, 名古屋大学文学部, 昭和 34 年 3 月)
- 「平曲の音声(上)(下)」(『音声学会会報』第 99・101 号, 昭和 34 年 4・12 月)
- 「平家語釈僻案抄」(『名古屋大学国語国文学』第 2 号, 昭和 34 年 6 月)
- 「南牟婁アクセントの一例」(『三重県方言』第 9 号, 昭和 34 年 10 月)
- 「方言の文法」(『日本民俗学大系』第十巻 口承文芸, 平凡社, 昭和 34 年 11 月)
- 「アクセントから見た琉球語諸方言の系統」(『東京外国語大学論集』第 7 号, 昭和 35 年 8 月)
- 「房総アクセント再論——グロータースさんの「千葉県アクセントの言語地理学的研究」を読んで——」(『国語学』第 40 輯, 昭和 35 年 3 月)
- 「平声軽の点について」(『国語学』第 41 輯, 昭和 35 年 8 月)
- 「国語のアクセントの時代的変遷」(『国語と国文学』第 37 巻 第 10 号, 昭和 35 年 10 月)
- 「文法」(東條操編『方言学講座』第一巻 概説, 東京堂, 昭和 36 年 1 月)
- 「音韻史資料としての真言声明」(『国語学』第 43 輯, 昭和 36 年 2 月)
- 「島の言語」(『人類科学』第 13 号, 昭和 36 年 3 月)
- 「方言と方言学」(国語学会編『方言学概説』, 武蔵野書院, 昭和 37 年 11 月/改正増補版 昭和 43 年 1 月)
- 「語感の正体」(『言語生活』第 134 号, 昭和 37 年 11 月)
- 「柳田国男先生と国語学」(『国語学』第 51 集, 昭和 37 年 12 月)
- 「私のアクセント非段階観——和田実氏の論考に答え問う——」(『国語研究』第 17 号, 昭和 38 年 12 月)
- 「話しコトバの敬語的表現」(『言語生活』第 149 号, 昭和 39 年 2 月)
- 「佐渡方言の諸相」(九学会連合佐渡調査委員会編『佐渡: 自然・文化・社会』, 平凡社, 昭和 39 年 3 月)

- 「音声と音韻」(『国文学 解釈と鑑賞』第29巻 第7号, 昭和39年6月)
- 「東西両アクセント発生の問題点——都竹・山口両氏の所論を読んで——」(『国語学』第58集, 昭和39年9月)
- 「私の方言区画」(日本方言研究会編『日本の方言区画』, 東京堂, 昭和39年10月)
- 「丁寧な発音の弁」(『国語国文』第34巻 第1号, 昭和40年2月)
- 「讃岐アクセント変異成立考(上)(下)」(『国語研究』第21・22号, 昭和40年11月・41年5月)
- 「高さのアクセントはアクセントにあらず」(『言語研究』第48号, 昭和40年11月)
- 「真鍋式アクセントの考察」(秋永一枝・金井英雄と共著, 『国語国文』第35巻 第1号, 昭和41年1月)
- 「日本の方言」(『ことばの宇宙』第4号・第5号, 昭和42年4・5月)
- 「東国方言の歴史を考える」(『国語学』第69集, 昭和42年6月)
- 「副詞「かつ」考」(『国語研究』第31号, 昭和46年3月)
- 「音韻変化からアクセント変化へ」(『金田一博士米寿記念論集』, 三省堂, 昭和46年10月)
- 「隠岐アクセントの系譜——比較方言学の実演の一例として——」(服部四郎先生定年退官記念論文集編集委員会編『現代言語学』, 三省堂, 昭和47年3月)
- 「平家正節に見える平曲の大旋律型の種類」(『吉川英史先生選暦記念論文集 日本音楽とその周辺』, 音楽之友社, 昭和48年3月)
- 「愛・三・岐県境付近の方言境界線について」(『松村博司教授定年退官記念 国語国文学論集』, 名古屋大学国語国文学会, 昭和48年4月)
- 「去声点で始まる語彙について——本誌第90集所載の望月郁子氏の論文を読んで——」(『国語学』第93集, 昭和48年6月)
- 「比較方言学と方言地理学」(『国語と国文学』第50巻 第6号, 昭和48年6月)
- 「世界諸言語のアクセントの種々相」(『松山商大論集』第25巻 第6号, 昭和50年2月)
- 「言語生活五十年の歩み」(『言語生活』第282号, 昭和50年3月)
- 「連濁の解」(『Sophia Linguistica』第2号, 昭和51年2月)
- 「平家正節の祖本を疑う」(『芸能』第18巻 第9号, 昭和51年9月)
- 「国語史と方言」(松村明編『講座国語史』第一巻 国語史総論, 大修館書店, 昭和52年5月)
- 「アクセントの分布と変遷」(大野晋・柴田武編『岩波講座日本語』第十一巻 方言, 岩波書店, 昭和52年11月)
- 「愛知県アクセントの系譜」(国語学懇話会編『国語学論集』第一輯, 笠間書院, 昭和53年3月)
- 「再び『平家正節』の祖本について」(『芸能』第20巻 第4号, 昭和53年4月)
- 「日本のわらべうたのリズム」(『言語』第8巻 第12号, 昭和54年12月)
- 「曲節「呂」の基音の考」(渥美かをる・奥村三雄編『平家正節の研究』, 大学堂書店, 昭和

55年1月)

- 「日本語のアクセントから中国唐時代の四声値を推定する」(『日語学習の研究』第4巻 第5号, 昭和55年4月)
- 「味噌より新しく茶よりは古い——アクセントから見た日本祖語と字音語——」(『言語』第9巻 第4号, 昭和55年4月/補訂 第9巻 第7号, 昭和55年7月)
- 「橋本進吉伝 (一)~(三)」(『日本語学』第2巻 第2・3・4号, 昭和58年2・3・4月)
- 「『魚山叢芥集』の墨譜の問題点について」(高野山大学仏教学研究室編『中川善教先生頌徳記念論集 仏教と文化』, 同朋舎出版, 昭和58年3月)
- 「方向観による平安朝アクセント」(『Sophia Linguistica』第11号, 昭和58年)
- 「日本語の型」(『文学』第51巻 第11号, 昭和58年11月)
- 「日本祖語のアクセントと琉球方言」(『Sophia Linguistica』第17号, 昭和59年)
- 「比較方言学」(飯豊毅一ほか編『講座方言学』第二巻 方言研究法, 国書刊行会, 昭和59年10月)
- 「秋永一枝氏の魚島方言の報告を読んで」(『言語』第15巻 第10号, 昭和61年10月)
- 「奈良・平安・室町時代の日本語を再現する」(長崎県高等学校教育研究会国語部会編『国語研究』第31号, 昭和62年4月)
- 「アクセント素を拝辞する」(『言語の世界』第8巻 第1・2号, 平成2年12月)
- 「曲節「下ゲ」の考」(上参郷祐康編『平家琵琶——語りと音楽——』, ひつじ書房, 平成5年2月)
- 「有坂音韻論私観」(『東京大学国語研究室創設百周年記念 国語研究論集』, 汲古書院, 平成10年2月)

——早稲田大学教授——